

安全管理マニュアル

目次

1. チェックリスト 2～3
2. 延期・撤収の判断 4
3. 危険生物 4～5
4. 枯れ草・植物 5
5. 注射器 6
6. 熱中症対策 6
7. 救急キット 7
8. 加入している傷害保険 7～8

～安全管理の基本原則～

以下の3点を主な基本原則としています。

- ① 自然の中、かつ、水の近くでの活動ですので、
事故は起こり得るとの認識の下、
安全面に十分配慮してください。
- ② このマニュアルを参考に、**独自の対応基準**を
事前に話し合っ取り決めてください。
- ③ **安全管理は、各団体の責任下で、**
行ってください。

これらを踏まえ、日頃より詳細な安全ハンドブックや講習会等を通じて、安全管理の知識やスキルの向上に努めていただくことを推奨します。

1. チェックリスト

1

【スタッフの確保】

- 安全に運営するのに必要なスタッフを確保した
- スタッフの配置・役割を確定した
- 打ち合わせを行い(または周知し)当日の流れを共有した

【参加者への案内】

- 服装:以下について事前周知した
 - ・長袖・長ズボン(危険生物や植物、生物による感染症等から身を守るため)
 - ・足首がかくれるソックス
 - ・踏み抜き防止加工が施された運動靴または長靴
(落ちている釘や危険生物や植物から身を守るため、かかるとベルトがあるものも含めサンダル類は厳禁)
- 持ち物:以下について事前周知した
飲み物(水筒等)、軍手、(季節に応じて)帽子、防寒着 など

【(必須)事前・当日の確認・下見】

- 水位・潮位を確認し、活動予定地で安全に活動
荒川下流は潮の干満の影響を受け、最大約2m水位が変化する。水際で清掃活動を行う場合は、実施日の水位に近い日時を選んで下見を行うとよい。

(活動日時の水位)

潮時情報 → SmailNetBBS 磯釣りのページ

http://www2q.biglobe.ne.jp/~ooue_h-h/tide/kanto_s.html

- 川へ転落する可能性がある危険箇所を確認した
コンクリート護岸においては、転落に注意を払う必要がある。
スローロープを用意する。
- PM2.5、マダニ、デング熱等への対応を決定した。
(補足資料、国や自治体等の資料を参考に。)
※安全管理マニュアル補足資料も参考。



下記の事項を確認した

- 河川敷道路の交通量・他の活動(ランニングイベントなど)がないか
- 駅から集合場所へのルート
- 集合・説明場所、日陰(具合の悪い人を休ませるため)
- トイレ、手洗い場の位置
- ヨシの刈り跡(先がとがっていないか)
- ヘビやハチ(ハチの巣)、などの危険生物(P5参照)
- 河川敷生活者(場合により、下見時に声をかけておくのもよい)
- 干潟を活動範囲とするか、干潟の泥の状態

【安全上の準備物】

下記の準備物を確認・用意した

- (休日受診可能な)最寄の病院の連絡先・アクセス
- 救急キット(P7参照)
- 水分(暑い季節に)
- ブルーシート(具合の悪い人を休ませるため)

【当日：参加者への注意・確認事項】

下記を注意・周知した

- 健康状態に不安のある場合は、スタッフに伝達
- 途中帰宅する場合はスタッフに伝達
- 注射器(P6参照)
- 危険生物(P5参照)
- 河川敷生活者(周囲のごみは拾わない)
- 他の活動者にも配慮する
- その他危険な場所・危険物
- 軍手を着用し、トンクを使用(危険なごみや生物から身を守るため)
- 高速で走行する自転車(河川敷道路横断時に必ず左右の確認をする)

2. 延期・撤収の判断

河川敷での活動では、延期・撤収の判断次第で重大な事故につながる可能性がある。次の点を参考に、慎重に判断する。

- 大雨・台風：
小雨であれば活動できる場合もある。ただし、大雨になりそうなときは速やかに撤収する。
 - 増水・濁流：
当日晴れていても、大雨・台風の後には、増水・濁流など、水際での活動に危険が生じることがある。
 - 熱中症が心配されるレベルの気温上昇、光化学スモッグ、寒い時期に雨が降って来たときなどは、早めに切り上げること。
 - PM2.5、マダニ、デング熱等：補足資料、国や自治体からの情報を参考に。
- ※ 安全な活動とするため、悪天候での実施はなるべく避ける。
あらかじめ延期日を決めておくようにする。

3. 危険生物

■【毒蛇】マムシ・ヤマカガシ（出会いやすい季節：春から秋）

荒川にはマムシ(有毒)、ヤマカガシ(有毒)、アオダイショウ(無毒)などがいるが、区別は容易ではない。ヘビを見たら、近寄らず、静かにその場を離れる。誤って踏むなど、人間から手を出さなければ襲ってくることはない。夏～秋、特に7月は活動が活発になるので注意が必要。草むらに入るときは、棒などで先を確認しながら進む。噛まれたら、止血し、すぐに病院に運び、手当てを受ける。口で毒を吸い取るのは厳禁。



※無毒であっても噛まれた場合、破傷風等に感染する恐れがある。

マムシ 40～70cm。
頭が三角形で、くびはやや細く、全身茶色で黒褐色の銭型斑点がある。

■スズメバチ類（春から秋に見られるが秋に凶暴化する）

荒川には複数種のスズメバチ類が生息している。下見時には、茎の固い草が密に繁っているところや樹木などに巣がないかを確認する。巣がある場合は、目印をつけ、参加者を近づかせないようにする。

ハチは黒く動くものに襲いかかる習性があるため、黒っぽい服装は避ける。また、香料の強い化粧品・整髪料等も避ける。



遭遇した場合は、振り払ったり、走って逃げたりせず、その場でしゃがみ、行ってしまおうのを待つ。振り払うことで、ハチは攻撃されたと認識し襲ってくる。襲われた場合は、目や心臓部等急所を隠しながら姿勢を低くしてゆっくりその場を離れる。

刺されたら、患部をきれいな水で洗い、すぐに病院で手当てを受ける。

患者は走らせない。

■アカエイ（一年中注意が必要）

東京湾から遡上してくる。北区の干潟でも見られる。尾の付け根に1～2本の毒針があり、刺されると激痛が走る。死に至る危険もある。干潟水中の砂に身を隠していることが多いので、干潟を歩くときには注意する。刺されたら、止血し、すぐに病院に運び、手当てを受ける。



4. 枯れ草・植物

■枯れ草・硬い植物(ヨシなど)

特に秋から春にかけて、枯れ草・植物等は硬くなっているため、目や鼻などに植物が刺さったり、葉先で手足が切れたりすることがある。特に、子どもは、顔の高さに植物の先端がくるため、保護者等が十分に注意する。また、刈った後のヨシは、切り口が尖り危険なため、足元にも注意が必要。露出の多い服装、特にひざから下が出ている人は、植物の茂った場所には入らない。

5. 注射器



荒川ではどの実施場所でも高確率で見つかる。発見した場合は、決して触らず『荒川クリーンエイド当日報告用紙』の「■ごみの集積場所・活動エリア」に、発見した場所や本数などが分かるように記載してください。

インシュリン注射器はサインペンのように見える(写真左の下)、写真右のようなタイプのももあるので注意すること。

特に子どもが触らないように注意する。

■針が刺さった場合の対応

河川敷で見つかる注射器は、薬物/医療用の可能性が考えられる。針が刺さった場合、病院で定期検査を受けることになる。※ 当日中に必ず通院すること。

6. 熱中症対策

■当日、最高気温が35度以上(高温注意報発令)の場合には、無理をせず、中止や延期、早めの終了などを検討する。

■予防法

- 十分な水分を持参する、体調を整えて参加する。
- こまめな水分補給(のどが渴いていなくても)、休憩を取る。

■対処法

- 日陰の涼しい場所に移し、安静にする。
- 水分を取ることができれば補給させる(水、アミノ酸入飲料等を数回に分けて与える)。
- 冷たい水でぬらしたタオルか冷却パックで、額や首筋、わきの下、内ももなど太い血管のある場所を冷やし、うちわなどで風を送る。
- 発汗が止まり、皮膚が乾き紅潮するなどの症状があるときは、救急車を呼ぶ。けいれん、意識がもうろうとしている場合は、死亡につながる危険がある。

※低体温症にもご注意ください

河川敷は、街中よりも気温が低いことが多い。冬季には防寒着を用意する。寒い時期に雨が降り始めたら速やかに撤収する。冬季以外にも、発汗により体温が奪われ発症することもある。唇の色が変わる、震えが止まらないなどの症状が現れたら、毛布等で体を温め、温かい飲み物を飲ませる。急激な加温は厳禁。

7. 救急キット

- 消毒液
- 虫刺され薬（抗ヒスタミン）
- ばんそうこう（多種サイズ）
- 包帯・ガーゼ
- テープ類
- ティッシュペーパー、
ウエットティッシュ
- 刺抜き
- はさみ
- 虫除け
- （熱中症対策）携帯用冷却パック、
せんす・うちわ、凍らせたペットボ
トルとタオルなど
- （低体温症対策）使い捨てカイロ、
毛布・サバイバルシートなど
- ミネラルウォーター
（傷口やハチに刺されたとき
患部を洗うのに用いる）

8. 荒川クリーンエイドで加入している傷害保険

※補償内容に不足がある場合は実施団体での任意加入もご検討ください。

次の手順で報告する。

① 参加者名簿の提出（けが人の有無にかかわらず）

スタッフを含め、参加者全員の氏名（漢字）を提出。

《例：荒川太郎》

② けが人が出たら、事務局に報告

病院にかかるようなけがの場合、けがをされた方の氏名、住所、連絡先、けがの
状態、現地での応急措置、搬送先の病院などを、速やかに報告する。

※救急車を要請した場合は、即時に連絡すること。

連絡先 03-3654-7240（月～金 10:00～17:30）

080-4132-7240（土日/祝日）

※ 当座の治療費は、本人が支払う。



その後の対応については、
事務局または保険会社からご本人に連絡します。

傷害保険補償内容

○荒川クリーンエイド活動で起きた事故に限る(会場までの移動中も適用)。

○支払額 死亡：1,000万円

入院：5,000円/1日 発生から180日まで

通院：3,000円/1回 発生から180日の間で
90回まで

○支払われない場合または、支払い請求に困難を要する場合

- ・風邪、インフルエンザ等の疾病(活動との因果関係の証明が難しい為)
- ・天変地異などによる災害やテロ
- ・明らかに本人の不注意によるもの
- ・熱中症

9. その他会場での留意点 (メモ)

<荒川クリーンエイドで生じた実際の事故事例>

ここ最近では以下のような事故が起きています。ご注意ください。

- ・散歩していた犬に手を噛まれる
- ・河川敷道路を横断中、走行してきた自転車と接触し、転倒
- ・落ちていた注射器を回収しようとして針が指に刺さる など



←オンラインでも安全管理マニュアルを用意しています。

https://www.cleanaid.jp/safety_management